



◆茗溪学園 IBDP コース 1 期生の声 :

「IB での学びを終えて」

私が 茗溪学園の IBDP 教育課程を通じて得たものは、あらゆる物事に対してその本質を読み取ろうとする姿勢と、自分で考え、自らの立ち位置を決める力を身につける大切さを学んだ点に代表されると、感じています。

IB の学びにおいて求められる「批判的思考スキル」は、知識の正しさや本質を見極めるために必要なものです。中でも「知の理論」と呼ばれる TOK での授業では、「常識」とは何か、何をもち「幸福」とするか、本当の意味での「国際性」とはどうあるべきなのか、といった問いかけは、私たちが知っているつもりで考えていなかったということに、「気づき」を与えてくれました。私たちはそれらを、勝手に決めつけて口にしてはいますが、思慮の伴わないそれらの言葉にどれほどの価値があるのでしょうか。私は、それらの本質を決めつけて与えるのではなく、考える姿勢を身につけさせる IB 教育に、大きな価値があると感じました。また、本質への理解を深めたとき、私たちは社会における自らの立ち位置を決める機会を得ます。先生が何も教えずに授業が終わることは、いわゆる常識からすれば非常識ですが、そこに生徒の「学びの本質」があれば、選択肢に加えてもよいのではないのでしょうか。

本質を知り、立ち位置を自ら考え、定める力がなければ、私たちは「常識」に従って先生の言ったことしか、学ぶことができないでしょう。自らの立ち位置を他人の価値観に委ねてはならないことを、IB の学びを通して強く実感しました。

